

支 援 事 業  
報 告 集



愛芸アシスト基金

**2016**  
年度



ご賛同いただいた皆様へ

日頃は、愛芸アシスト基金にご支援をいただき、また愛知県立芸術大学の展覧会や演奏会にお運びいただき、ありがとうございます。皆様からのあたたかいご支援、ご厚意に深く感謝申し上げます。

本学は、昨年度創立50周年を迎えました。長年にわたって地域における芸術・文化の創造活動の拠点になることを目指してきました。おかげをもちまして、美術・音楽両分野より芸術家・研究者・教育者を日本のみならず、世界で活躍する卒業生を輩出することができました。

これもひとえに、県民の皆様、地域の皆様そして何より愛芸アシスト基金にご賛同いただきご厚意を寄せていただける皆様のおかげです。

今後も芸術文化を担う人材育成の為、本学はこれからも皆様のご支援の元、引き続き「創造と保存」という両輪が備わる理想的な大学を目指し、芸術文化の発展に寄与するよう、また地域の皆様に愛される愛知芸大にしていくよう努力してまいります。変わらぬご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

愛知県立芸術大学 学長 松村公嗣

01 オペラ公演「皇帝ティートの慈悲」

平成28年12月3日(土)、4日(日)  
長久手市文化の家

02 愛・知・芸術のもりから

平成28年5月～平成29年3月 計6回  
SMBCパーク栄

03 収蔵品展

平成28年5月10日(火)～6月8日(水)  
愛知県立芸術大学 芸術資料館

04 愛知県立芸術大学サテライトギャラリーでの展覧会支援

平成28年4月～平成29年3月 展覧会開催回数:19回  
愛知県立芸術大学サテライトギャラリー

05 芸術祭における講演会開催支援

平成28年11月5日(土)  
愛知県立芸術大学

06 学生企画の支援

平成28年4月～平成29年3月  
5件(美術学部・美術研究科2件、音楽学部・音楽研究科3件)  
※本年度より上限150,000円とし、学生の魅力ある大型企画事業に助成しています。

## 01 オペラ公演「皇帝ティートの慈悲」

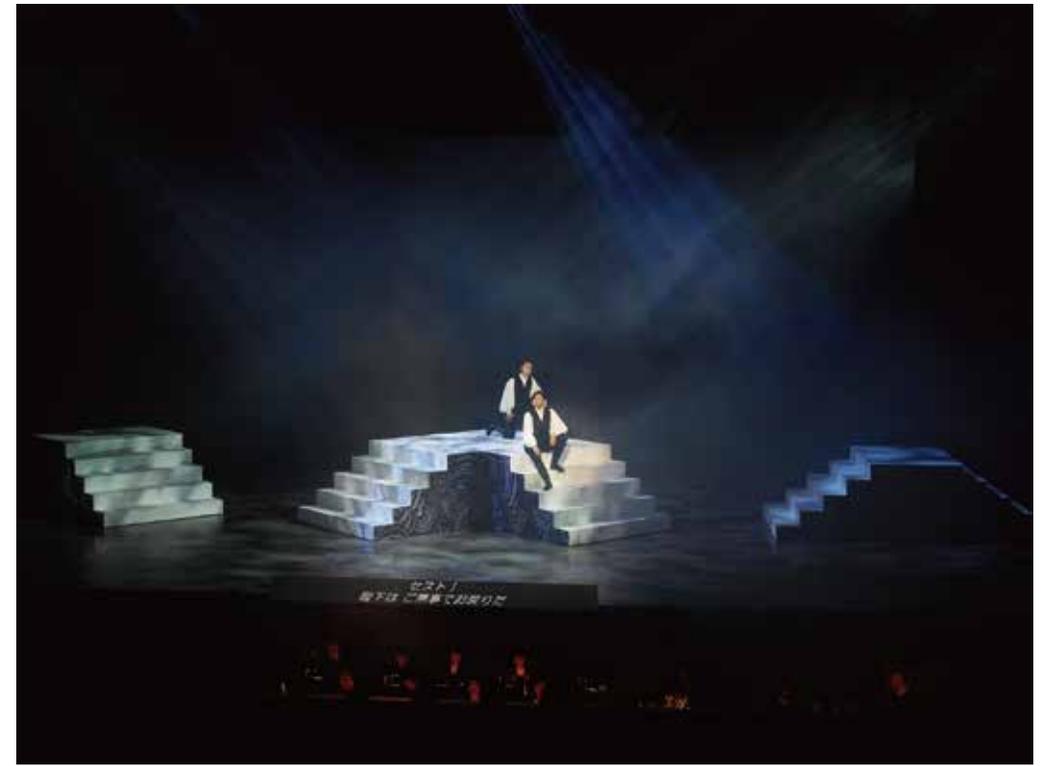


平成28年度のオペラ公演として、モーツァルト作曲「皇帝ティートの慈悲」をお届けいたしました。「皇帝ティートの慈悲」は上演機会が少ない演目でしたが、皆様のおかげで長久手市文化の家の2公演を無事終えることができ、お客様にも好評をいただきました。

階段状ユニットの組み合わせによって、古代ローマの荘厳かつ重厚な世界観を表現した舞台美術は、ミニマムでありながら無限の広がりとお行きを感じさせる斬新なものとなりました。

平成29年度は、フンパーディンク作曲「ヘンゼルとグレーテル」を5年ぶりに取り上げます。愛知芸大が制作し挑戦するオペラとして、ぜひご期待ください。パティオ池鯉鮒(知立市文化会館)での公演も再開いたします。愛芸アシスト基金の寄付者様にはチケットの準備をさせていただきますので、ぜひご来場ください。

末吉利行 (オペラ制作責任者)



## 02 愛・知・芸術のもりから



「愛・知・芸術のもりから」は、愛芸アシスト基金のご支援のもと、平成28年度で7年目を迎えることができました。名古屋の中心に位置するSMBCパーク栄でのレクチャーコンサートは、優秀な本学卒業生・修了生たちが音楽を発信する素晴らしい舞台となっています。

平成28年度は、ピアノ、声楽、弦楽器、管打楽器の卒業生・修了生から計6グループが出演しました。毎回、満席に近い

お客様にお楽しみいただいております。このレクチャーコンサートは、出演する若い音楽家にとって大変良い経験となっていると同時に、愛知県立芸術大学を広く知っていただく機会にもなっております。今後とも皆様の温かいご支援をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

福本泰之（音楽学部長兼研究科長）

## 03 収藏品展



愛知県立芸術大学の芸術資料館では、コレクションを広く一般に公開するために、毎年さまざまな切り口での展覧会を企画しております。

平成28年度は、本学の創立50周年を記念して、本学のコレクションが形成された過程とその多様性に着目した展覧会「蒐集の半世紀—学びと成果—」を開催いたしました。名立たる作家の優品からや優秀な卒業・修了制作の買上作品まで多岐にわたる作品群は、「芸術を学ばせるために、学生たちに何を教えてゆくのか」という視点から、教員自身の目と足で蒐集されてきたものです。本展では、本学の美術教育における「学び」が「成果」へと結ばれていく半世紀を紹介し、好評を得たと自負しております。

また、会期中には芸術学専攻高梨光正准教授による関連芸術講座「謎解き商売—美術史家の眼」が開講され、ある

《時禱書零葉》の制作地や時代をその鑑識眼から紐解き、教育参考品として購入するまでの過程を明かす内容で、大変な盛況をみました。

愛芸アシスト基金からは、展覧会開催に係る作品の運搬・取扱いの美術品専門業者への委託費をご支援いただきました。これらは、本学のコレクションを安全かつ適切に公開し、次代へと引き継いで行くために、欠くことのできないものであり、また、愛芸アシスト基金の皆様のご支援がなければ展覧会の開催も儘なりませんでした。心より御礼申し上げます。

平成29年度は2名の彫刻家の新収藏品を中心に、通常は創作の裏側に秘されるドローイングや習作に焦点をあてた展覧会を開催する予定となっております。変わらぬご支援を賜りたく、宜しく申し上げます。

倉地 久（芸術資料館長）



## 04 愛知県立芸術大学サテライトギャラリーでの展覧会支援



三井淑香「April fool」



Double Diablerie



スティール・ヴォイス



白川昌生・小田原のどか「彫刻の問題」



千支展



宮坂恵子「アリスダンス」

愛知県立芸術大学のサテライトギャラリーは、一般市民が広く芸術に親しむ機会を提供するため、平成22年5月に栄町商店街(名古屋市)協力のもとオープンしました。平成28年度は、作家活動をしている卒業生・修生生の個展、海外協定校との企画展、千支展、本学の教員及び学生による研究発表展など19件の展覧会を開催し、のべ約8千人のお客様に鑑賞をしていただき、大変な盛況をみました。昨年はサテライトギャラリーのある中央広小路ビルにおいて、国際芸術祭である「あいちトリエンナーレ」が開催されたことによる相

乗効果により、サテライトギャラリーの認知度を高めることに成功したと思います。

愛芸アシスト基金の皆様には、展覧会運営に関わるギャラリースタッフの雇用費用をご支援いただきました。展覧会を滞りなく運営できましたこと、心より感謝申し上げます。

平成29年度も引き続き、魅力ある展覧会と作家によるギャラリートークなどを開催する予定です。変わらぬご支援を賜りたく、宜しく願い申し上げます。

倉地 久(芸術資料館長)

## 05 芸術祭における講演会開催支援



時代と社会のリアルに全力で介入した強い社会的メッセージを持つ作品を次々と発表する6人アーティスト集団「Chim↑Pom」を講師に迎えた講演会。一般の来場者だけでなく先生方や在學生にも大勢お越しいただき、192席ある新講義棟大講義室は満席で立ち見も出るほどの人気でした。

彼らのセンセーショナルな活動は大きな衝撃を与え、これまでの代表的な作品や映像作品を元にした、制作に対する考え方や想い、普段の活動雰囲気語っていただいた公演に、教室を埋め尽くした来場者は全員聞き入っていました。

宮本 朋佳(芸術祭実行委員講演会担当)



## 06 学生企画の支援



事業名：Clarinetissimo

報告者：若林 悠人(学部 器楽専攻 管打楽器コース)

今年で4回目となる本学クラリネット教授・専攻生による「Clarinetissimo」は、テーマを「The America」として、アメリカに由縁のある作曲家の作品などを演奏しました。

海外で活躍されているピアニストの足立弥生さん、東京都交響楽団のヴァイオリニストの吉岡麻貴子さんをゲストにお迎えし、本学准教授である原田綾子先生とバルトーク作曲の「コントラスツ」を演奏していただきました。

また、私達はミニマルミュージックであるライヒ作曲の「ニューヨークカウンターポイント」という曲にも挑戦し

ました。

今まで取り組んだことのないジャンルの楽曲で、私自身、クラリネットアンサンブルの新たな可能性を見出すことが出来たと思います。

愛芸アシスト基金のご支援で、今回は例年より更に素晴らしい演奏会ができたことに心から感謝しています。これからも更によりよい演奏会となるよう専攻生一同努力していきますので、今後も「Clarinetissimo」の活動にご注目ください。



事業名：感じた漢字 -周瑞剛デザイン展-

報告者：周 瑞剛(大学院 デザイン領域)

愛芸アシスト基金の支援で、2016年10月4日～9日名古屋の栄で研究発表展を開催しました。来場の方に様々な意見や感想を頂き、私の研究「漢字を応用したグラフィックデザインの研究」の大きな糧となりました。

私は中国からの留学生です。白木教授の研究室で「暮らしに彩りをそえる」ことを目標に漢字デザインを研究しています。現在は漢字を使って「共感」について研究しています。それを調査するには、展覧会を開くことが直接的で有効な調査方法です。展覧会の期間では多くの来場者と交流し、貴重な意見や感想をもらいました。その結果、

研究作品を再検討する点をたくさん見つけることができました。この経験は修了制作を含め研究の推進に大いに役立ちました。

また、来場者の多くの方が、作品の展示方法と空間の使い方も評価して下さいました。会場全体が一つの作品になったと自信が持てました。

今回の個展の開催には、愛芸アシスト基金からの支援に大変助けられました。本当にありがとうございます。漢字の楽しさを多くの人々に伝えるために、今後も努力したいと思います。





事業名：中学の合唱曲をガチで歌ってみた リターンズ!!  
報告者：星野 璃紗子(学部 声楽専攻)

2016年12月21日、天白文化小劇場にて、「中学の合唱曲をガチで歌ってみた リターンズ!!」を開催いたしました。

このコンサートは、声楽専攻・作曲コース・ピアノコースの有志で構成された「思春期な声楽科たち」という団体による自主企画コンサートです。昨年度(2015年)の芸術祭に引き続き、第2回目の開催を迎えることができました。

前回と同様に「普段音楽になじみがない人も楽しめるコンサートを作る」「声楽を勉強している私たちだからこそできる演奏をする」という想いをもち練習を重ねてきました。

第1ステージでは、アンサンブルや開催時期に合わせクリスマスソングを演奏し、誰でも楽しめるステージ作りを心掛けました。

第2ステージでは、この演奏会のメインとなる中学の合唱

曲を演奏し、お客様に懐かしさや、新たな発見をしていただける機会になるよう努めました。

演奏会後には、多くの方から「また聴きたい」という言葉をいただくことができ、次に向けての手応えを感じております。

このように成功を収めることができたのも、愛芸アシスト基金の皆様をはじめ、多くの方の支えがあったことです。ありがとうございました。

この演奏会を通して、メンバー一同改めて中学の合唱曲の魅力を知ることができました。今後の開催は未定ですが、これからも多くの方にこの魅力を伝えられるよう、一人一人が音楽に真剣に向き合い、練習に励んでいきたいと思っております。



事業名：愛知県立芸術大学打楽器専攻生による第16回定期演奏会 打のとき  
報告者：前田 秀明(学部 器楽専攻 管打楽器コース)

毎年、愛知県立芸術大学打楽器研究室は、一年かけて「打のとき」という演奏会を作り上げています。今年は本学が創立50周年という大きな節目の年ということで、例年とはひと味違ったものにしたい!となり、エンターテインメント性に富んだ曲を取り上げ、更に「本邦初演作品」をプログラムに盛り込みました。演奏はもちろん、初演作品で必要となる特殊楽器も、美術学部棟の工房をお借りして、アドバイスを頂きながら、自分たちで試行錯誤を繰り返しながら制作して演奏をしました。

愛芸アシスト基金のご支援や、本学の先生方のご指導など、多くの人の助けに支えられて無事本番を迎え、公演は

たくさんのお客様にご来場頂き、成功を収めることができました。

今年度で16回目となった「打のとき」ですが、普段あまり触れることのない打楽器音楽を、たくさんの人に楽しんで頂けるコンサートを目指し、運営や演奏を全て学生が取り仕切り、「演奏家として生きる」ために必要なことを学べる大きな機会となっております。

これからも、より多くのお客様に満足していただけるよう充実した演奏会を目指してまいります。最後に、愛芸アシスト基金からのご支援により、例年より大きな演奏会が行えたことを深く感謝しております。





事業名：「25年目の風景」展(魅了された風景の共有)

報告者：都築 絵利奈(学部 油画専攻)

美しい風景を見たとき、その風景を大切な人にも見てもらいたい、分かち合いたい、共有したいという思いになります。しかし、写真では自分が見た風景の美しさや感動はうまく伝わりきりません。それを絵画という方法で伝えることはできないだろうかと考え作品制作を進めてきました。

今回の展示では、今まで描いた中で一番大きなサイズに挑戦することができました。約2m×3mの大きさと、自分の体を超える画面でもあり、制作中はその全てを把握することは難しいものでした。不安を抱きながらも展示空間に置いて見ると、今まで制作中に見ていたものとは全く違う表情をしていました。制作中と展示とでは、作品の見え方が違うといのはよくあることですが、ここまで大きく異なるものは初めての経験でした。それは描こうとした風景を画面に落とし込む過程で、どうしてもキャンバスや油絵の具に寄り添うように進めていかなければならない状況があったからだ

と思います。感動した風景やキャンバス、絵の具に飲み込まれそうになりながら、時にはあらがひ、時には流れに任せるように制作をしました。

そのことによって、今まで無意識だった筆の動きや色にも意識を向けることができました。また、新たな表現を見いだすこともできました。

今回の展示で、風景を絵画で描くことで新しい見え方があること、また展示空間をどのように扱うかによって作品全体の見え方が変わるのだと気づきました。展示を見てくれた方とも交流することができ、感想や意見などもいただくことができました。風景の共有というテーマに一步近づけたと思います。同時にこれからも意欲的に取り組んでいかなければ達成することができないテーマだとわかりました。今回の経験を踏まえ、さらに発展できるように取り組んでいきたいと思っています。

#### 01 オペラ公演「ヘンゼルとグレーテル」 支援額:200万円

平成29年12月9日(土)、10日(日)に長久手市文化の家、12月16日(土)にパティオ池鯉鮒(知立市文化会館)にて、「ヘンゼルとグレーテル」を公演します。

今年も、美術・音楽学部を兼ね備えた総合芸術大学の魅力をお楽しみください。

#### 02 愛・知・芸術のもりから 支援額:30万円

SMBCパーク栄にて、本学のOB・OGの演奏をお楽しみいただきます。

名古屋市の中心で、若い熱気と活気に満ちた演奏をご期待ください。

#### 03 愛知県立芸術大学サテライトギャラリーでの展覧会支援 支援額:215万円

名古屋市中区にあります愛知県立芸術大学サテライトギャラリーで行う展覧会運営支援です。

年々、来場者が増えてきて、認知度も高まったと自負しております。

様々な展覧会をご期待ください。

#### 04 学生企画の支援 支援額:60万円

今年度も、学生が企画した優れた展覧会・演奏会に支援をします。

昨年度より、本学後援会と協力し学生への支援を拡大しました。

#### 05 「芸術祭」での講演会 支援額:15万円

平成29年11月2日(木)～4日(土)で行われます「芸術祭」に、芸術祭実行委員会から学外者へ講演を依頼します。本学OB・OGはじめ、国内外で活躍する作家・アーティストに講演いただく機会に支援します。

#### 06 美術館入館料 支援額:20万円

今年度より、名古屋市美術館、愛知県陶磁美術館への学生・教職員入館料の助成を始めます。学生・教員の教育研究に大きく支援をします。

#### 07 芸術資料館収蔵品展「創作の裏側:新収蔵品を中心に」 支援額:20万円

創作の裏側から作家が何を考え、何を目指していたのかを新収蔵品をもとに展覧します。